BAND SCORE

DEEP PURPLE/MACHINE HEAD



HIGHWAY STAR · MAYBE I'M A LEO
PICTURES OF HOME · NEVER BEFORE
SMOKE ON THE WATER · LAZY · SPACE TRUCKIN'

ディープ・パープル/マシン・ヘッド

TOSHIBA EMI MUSIC SHINKE MUSIC PUB.CO.,LTD.

CONTENTS

HIGHWAY STAR いイウェイ・スター	3
MAYBE I'M A LEO メイビー・アイム・ア・レオ	22
PICTURES OF HOME ピクチャーズ・オブ・ホーム	32
NEVER BEFORE ネヴァー・ビフォア	49
SMOKE ON THE WATER スモーク・オン・ザ・ウォーター -	60
LAZY レイジー	71
SPACE TRUCKIN' スペース・トラッキン	100

HIGHWAY STAR

ハイウェイ・スター

Words & Music by R.Blackmore, I.Gillan, R.Glover, J.Lord & I.Paice

発表当時から数々のロック・ギター教則本に取り上げられ、今なお上達のための必須曲としてギター・キッズなら避けて通ることのできない、言わずと知れた名曲「ハイウェイ・スター」。全体的な注意点は、何といってもスピード感だろう。高速道路を突っ走る様子を体で感じて、速い8ビートが失速しないようメンバー全員が心掛けるように。E.ギターのポイントは、ミュート気味のダウン・ピッキング。 囚、囚など、バッキング・パターンはほとんど右手でブリッジ・ミュートをし、8分音符は全てダウン・ピッキングでプレイする。 ②で時折出てくる16分音符はアップ・ピッキングだ。 回からのギター・ソロではチョーク・アップ&ダウンのタイミングに気を付けたい。 ゆっくり上げるのか速く下げる

のか、といったタイミングによってフレーズのノリが変わってくるからだ。レコードをよく聴き、ニュアンスをつかんでもらいたい。また田の速弾きでは右手と左手が合うよう、まず最初は1元くらいの遅いテンポで練習し、それが確実にこなせるようになってから徐々に速めていくように。このようなピッキングでは手首を固めて、ヒジから下全体の上下動でやってみると案外やりやすいこともある。オルガン・ソロの回の部分では、ハモリのパートがオーバー・ダビングされている。ライヴではどちらかひとつを弾けばよい。ドラムとベースは、特に回のシンコペーションに注意したい。シンコペーション直後の2・4拍のタイミングがズレないよう、しっかりとリズムをキープレてプレイしよう。























































MAYBE I'M A LEO

メイビー・アイム・ア・レオ

Words & Music by R.Blackmore, I.Gillan, R.Glover, J.Lord & I.Paice

「レイジー」と同様にこの曲も12小節単位のブルース形式が基本となっており、やはりマイナーなのかメジャーなのかわかりにくい音使いとなっている。ここでもブルー・ノートを多用したメジャー・キーと解釈し、Cメジャーとして記譜した。E.ギターが特に気を付けたいのは、そのブルー・ノートの音程。Cメジャーの第3音は巨音で、ブルー・ノートはこの巨音が巨り音となるわけだが、ギターでプレイする場合、巨い音をちよっと高めの音程にするとブルージーな雰囲気が出る。つまり巨い音と巨音の中間くらいの音程がいいわけだ。図のギター・ソロでは8~10小節目の巨り音に全てQ.U.の表示がされているが、これは音チョーク・アップするという意味で、その微妙なブルー・ノートの音程を表わしてい

る。この部分は「きっちり十音上げる」というのではなく、たまには半音上がっても構わないというくらいのアバウトなニュアンスでプレイされるのだが、これが味な雰囲気となることを是非とも耳で覚えてもらいたい。全体的な注意点は、『一『』といった具合にリズムが16分音符でハネること。この感じ方がメンバーそれぞれに違っていると、ノリがバラバラになるので要注意。なお、ドラム・パートの()付のスネアは、スネア上でスティックが遊んでいて出る弱い音を示している。またライヴでやるような場合にはE.ピアノは省略し、ソロ部分はE.オルガンで代用すればいいだろう。



© 1972 by HEC MUSIC. Rights for Japan controlled by TOSHIBA-EMI MUSIC PUBLISHING CO., LTD.





























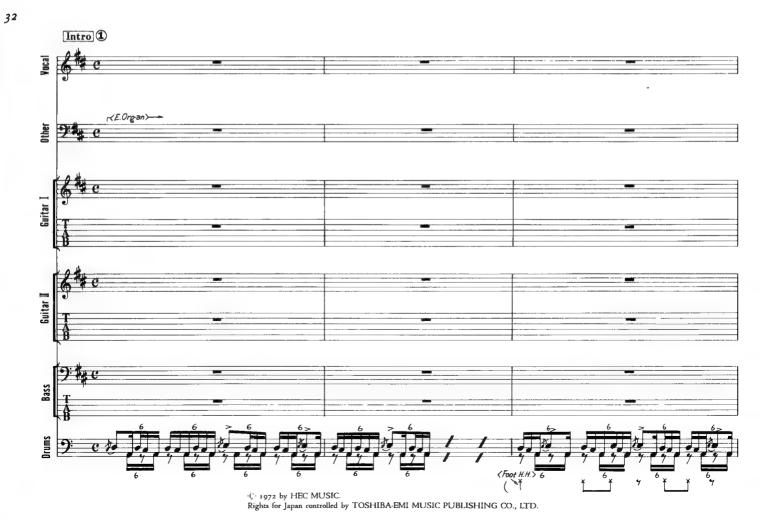
PICTURES OF HOME

ピクチャーズ・オブ・ホーム

Words & Music by R.Blackmore, I.Gillan, R.Glover, J.Lord & I.Paice

ギター、キーボード、ベース、ドラムの各パートに腕の見せ所がある、かなり難易度の高いこの曲だが、ライヴ映えしそうな構成なので是非ともチャレンジしてもらいたい。まずドラム。冒頭のソロ・パートはタムとバス・ドラムの3連符がつながってできているが、スネアが重要なアクセントとなっており、同時にIntro2で全パートが入るきっかけ作りにもなっている。リズムがわからなくならないよう、しっかりとハイハットを踏んでおこう。Intro2からはシャッフルのパターンとなるが、ソロに力を使い過ぎてパターンに入ってから失速するということにならないよう注意しよう。回はベース・ソロ。1~3小節目は難しそうだが、全て半

音進行なのできほど困難ではない。思い切り目立ってプレイしよう。むしろ難しいのは囚などのバッキング・パターンで、ハネるリズムと3連音符がドラム・パターンとしつかりシンクロするよう心掛けること。これはギターやオルガンも同様で、ギターのこれにいうリズムのピッキングは、慣れないとハシったりモタったりするので十分に練習すること。また囚などのオルガンのパターンは、両手を使ったドラム的なパラディドル奏法で3連音符のノリを出す高度なもの。 かなどの休符では、ギターの空ピックのように手をカラ振りするような感じでプレイするとノリを出しやすいはずだ。





















































NEVER BEFORE

ネヴァー・ビフォア

Words & Music by R.Blackmore, I.Gillan, R.Glover, J.Lord & I.Paice

明快なリフと親しみやすいメロディー・ラインで実にポップな感じのするこの曲だが、このポップさの原因としてE.ピアノの存在がとても大きい。E.ピアノがバッキングで使われているのは回回だが、ここのフレーズが典型的なロックン・ロール・ピアノとなっている。手首をリズミカルに使ってスタッカート気味に弾くのがコツだ。よく使われるフレーズなので、是非とも覚えておこう。また回のE.ピアノ・ソロも、1小節目のトリルや2、7小節目の装飾音フレーズなど、ロックン・ロール・ピアノの奏法が多用されている。どこかビートルズの「ゲット・バック」でプレイするビリー・プレストンを彷彿させる雰囲気がある。全体的な注意点は、Introと回以降とのノリの違い。Introは16ビートでファ

ンキーなノリを出しているが、回以降は8ビートだ。Introのギターは、音符のすき間にミュート・カッティングを挿入し、リズムを強調している。またD音のQ.U.(音音のチョーク・アップ)の音程が、ファンキーな感じを出す上で重要なポイントとなっている点も見逃せない。こういったプレイでは、ピッキングに強弱をつけてメリハリのあるフレージングにすることも大切だ。なお回のドラム・プレイは要注目。淡々とした8ビートで始まるが、ギター・ソロが盛り上がってくる後半からは、バス・ドラムが16分音符を含むリズムになって、アンサンブル全体のノリをあおっている。バンドらしいホットな雰囲気は、こんなところからも生まれるのだ。是非見習いたいところでもある。



C 1972 by HEC MUSIC. Rights for Japan controlled by TOSHIBA-EMI MUSIC PUBLISHING CO., LTD.































SMOKE ON THE WATER

スモーク・オン・ザ・ウォーター

Words & Music by R.Blackmore, I.Gillan, R.Glover, J.Lord & I.Paice

第2期ディープ・パープルの最高傑作とも善えるのが、この「スモーク・オン・ザ・ウォーター」だろう。特にイントロでのリフには、時代を越えた強力なインパクトが感じられる。ヴォーカルは、はっきりとしたメロディー・ラインがあるわけではないので、ブルージーな節回しを大切にして歌ってほしい。ギターは、リッチーならではのポジション・チェンジの多い連指と、整然とした16ビート・ピッキングがポイントだ。さらに、ヴィブラート、チョーキングなどの細かいニュアンスまでコピーできれば言うことはないだろう。バッキングに徹しているのが、キーボードだ。特

に難しいプレイではないが、8分音符のウラ打ちフレーズが多いので、ハシらないように落ち着いてプレイすること。イントロのベースが入ってくる部分は、ロジャー・グローバーのプレイの中でも特筆に値するものだ。テクニック的にどうというプレイではないが、このスリルに満ちたビートは、まさにハード・ロック・ベースの醍醐味だと言えるだろう。ドラムはかなり手数の多いプレイだが、フィル・インなどは自分なりにアレンジしても構わないだろう。ただし、イントロのハイ・ハットとスネアのパターンはしつかりとキメてほしい。



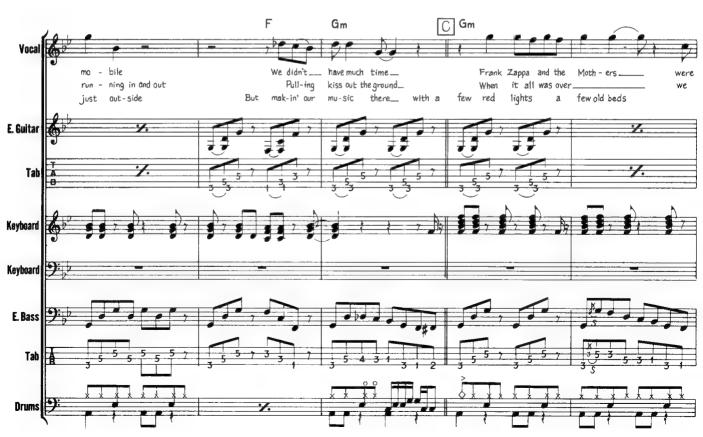
© 1972 by HEC MUSIC.
Rights for Japan controlled by TOSHIBA-EMI MUSIC PUBLISHING CO., LTD.

















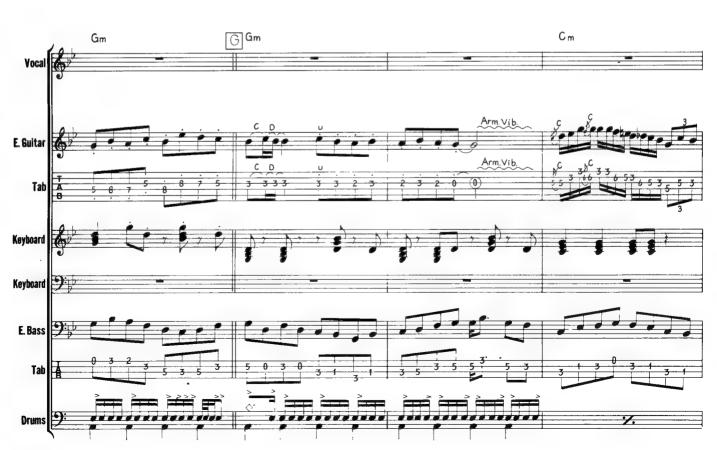
















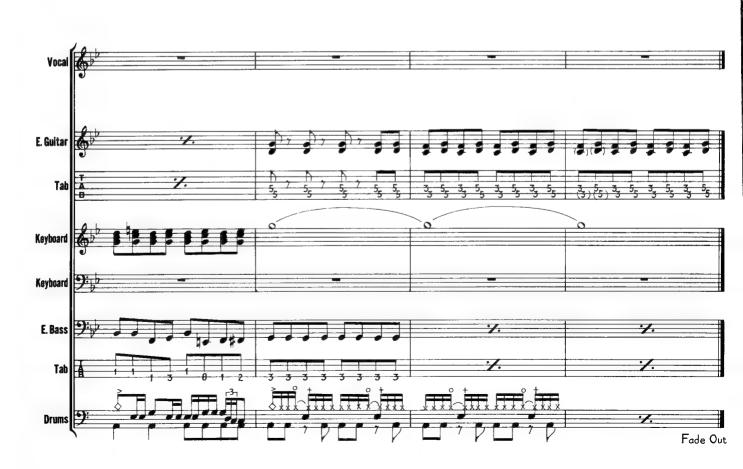












LAZY

レイジー

Words & Music by R.Blackmore, I.Gillan, R.Glover, J.Lord & I.Paice

まず全体的な調性について。12小節単位のブルース形式が基本となっているが、マイナー・ブルースのようにも聴こえるし、メジャーっぽくも聴こえる。これはスケールの第3音(FのキーならA音)が頻繁に半音下がっている(Ab音になっている)ため。譜面ではこれをブルー・ノート・スケールと解釈し、メジャー・キーのブルースとして扱っている。なお、冒頭のフリー・テンポのオルガン・ソロはFマイナーとして記譜した。この曲の面白いのは、本編に入る前にギターとオルガンがフリーな感覚でかけ合い的なプレイをするところ。両者とも本編(回以降)で聴かせるような激しい音色や音量ではなく、軽いタッチでしかも本編テーマのフレーズを巧みに折り込みながらプレイするのがコツ。ライ

可盤の演奏も参考にしてみるといいだろう。また区回の2箇所で1音ずつ上に転調したり、□の前でリズムがガラリと変化する楽曲構成も面白い。得てして単調になりやすいブルース形式の曲のアレンジ方法として参考にしたい。と同時に、その都度 # や ♭ がつく音が変わるので注意しよう。基本的なリズムは、速いテンポのシャッフル。この手の3連音符系リズムは、慣れないとなかなか合わせにくい。特に12小節単位の最後の小節にくる2拍目ウラのキメは、全パートがピシッと合わせられるよう心掛けてプレイしよう。なお、□の前のギターのピック・アップ・フレーズは思い入れたっぷりに弾くこと。このフレーズがテンポを決めるので、前の速いテンポとの差が十分に出るよう考えてプレイするように。

























































































SPACE TRUCKIN'

スペース・トラッキン

Words & Music by R.Blackmore, I.Gillan, R.Glover, J.Lord & I.Paice

サビの部分でのユニゾンのリフが、非常に印象的な曲だ。ヴォーカルは、前半抑え気味に歌っておいて、②から②の部分で一気に盛り上げるようにすればいいだろう。イアン・ギラン得意のシャウト唱法だが、中途半端にならないように声を振り絞ってシャウトしてほしい。ギターは、この曲に関してはかなり控え目で、ソロも正味 7 小節と短いものだ。バッキングに注目すると、ポイントになるのは③での休符を生かしたタイトなプレイと、②でのレガートによるヘヴィなプレイとの対比をハッキリつけるように

することだ。キーボードは、ハモンド・オルガン+ディストーション(ファズ)というライン・アップだが、アマチュアのキーボード・プレイヤーでハモンドを持っている人は少ないと思うので、これはシンセでオルガンの音をシュミレートしておいて、ディストーションを加えるようにすればかなり近いサウンドが出せるだろう。 ⑤からのドラム・ソロでは、かなりのテクニックが要求されるので、しっかり練習してほしい。特に、両手とバス・ドラムのコンビネーションに注意すること。



































Tab



















MAYBE I'M A LEO

PICTURES OF HOME

NEVER BEFORE

SMOKE ON THE WATER

LAZY

SPACE TRUCKIN'

